

はなりません。

そのためにも地域ぐるみの支援体制がどうしても欠かせません。そのための仕組みをどうつくるかが問題です。特に青年会議所についてはボランティアにも関心を強めていただくことを期待しています。

鉢 呂 会議所としても取り組んでいかなければならない。運動の展開を勉強していかなければならないと考えています。

高 橋 青年会議所の活動の根本はさががけ。10年間同じことをやることは考えていない。3年ぐらいで考えていく。実態はそうならないが。

市 長 しかし、継続することも必要ではないですか。

高 橋 阪神大震災で20代のボランティアがどんどんあつまった。ボランティア意識が変わったんだなどおもいました。体制を考えていかなければならない。

市 長 あのとときのボランティアによつて多くの人々が貴重な体験をされたと思います。そういうものを風化させてはなりません。現在、留萌市社会福祉協議会にボランティアコーディネーターがいて活動しているが市民の皆さんにもっと活用してほしいと思います。

ボランティアは自分が何をやれるかだと思っています。

高 橋 昨年の日本青年会議所の奉仕グランプリは高校生のボランティアの育成だった。ボランティアのシステムづくりが必要と思う。

今年の抱負

市 長 皆さんに今年一年の抱負や、今何が一番大事か、一言づつ聞かせていただきたいのですが。

高 橋 子どもが3人います。いづれ留萌を離れる時が来ると思いますが、このまちで暮らして見たいという気持ちにさせる下地づくりをしていきたい。

柳 沢 仕事で横浜に行っていたのですが、自分の中の横浜と実際の横浜のまちのイメージがあつていました。そういうまちのイメージづくりとまちづくりをしたいと思つています。

市 長 そういうまちのイメージというものは非常にたいせつだと思えますね。

吉 田 今年は意識改革を最重点としたい。心のゆとり、魅力あるまちをつくりたい。できることからはじめ、背伸びせず着実に自分のものにしていきたい。

野 口 商店街のカラー、店、街など全景のカラーを考えたい。大

都会の真似をしない留萌のまちづくりを勉強していきたい。

市 長 先ほど柳沢さんが言われたまちのイメージにもつながりませぬ。

鉢 呂 青年会議所は個人個人が勉強し、それぞれにとっていい形でやろうと考えている。いろいろなアンテナをはりめぐらし、留萌や自分たちのための活動を考えながらいろいろな人と協力しながらやつていきたい。そういう1年にしたい。1年間理事長としてやつていきますが皆さんに教えてもらいながら頑張つていきますのでよろしくお願いします。

市 長 大変ありがとうございます。貴重な意見でもましました。夢をもつて考えていることも伝わってきました。皆さんと協力しながら留萌のまちづくりをすすめていきたいと思えます。

若い青年会議所の今年1年のご活躍を祈念いたします。



吉田さん、柳沢さん、高橋さん、長沼市長、鉢呂さん、野口さん